

Title	変化対応力の実践とニッチ企業の持続的な成長
Sub Title	
Author	三根, 英晃(Mine, Hideaki) 浅川, 和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2008
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2008年度経営学 第2367号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2367">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2367</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	浅川和宏 研究会	学籍番号	80730994	氏名	三根 英晃
(論文題名)					
変化対応力の実践とニッチ企業の持続的な成長					
(内容の要旨)					
<p>日本企業は経営環境からの様々なプレッシャーなどで厳しい生存競争の中にあり、特長を持たない企業は市場からの退出を余儀なくされている。そうした状況下で、限定された市場に特化したコア事業を持ち、高い収益力を備えたニッチ企業が注目されている。しかし特定のコア事業に集中することは、変化への対応が困難になるという大きなリスクを伴うことでもある。</p> <p>本研究は、ニッチ企業が変化に対応し、持続的な成長を実現するための要因を明らかにすることを目的に行った。先行研究から、ニッチ企業の持続的な成長には、試行的な実践、変化への親和性、緊張感の存在といった内的経営要因と、安定的な市場シェア、高い利益率、安定的な市場規模といった外的環境要因が貢献するという仮説を設定した。</p> <p>そこでこれらの仮説を検証するために、上記の因子と企業業績についてニッチ企業にアンケート調査を行った。その回答に基づき、六つ因子（内的経営要因及び外的環境要因）を独立変数とし、競合他社と比較した純利益増加率と純資産増加率を従属変数として重回帰分析を行ったところ、高い利益率、安定的な市場規模、試行的な実践という順番の強度で、企業業績に正の影響を与えており、それらが持続的な成長に貢献することが明らかになった。なお他の因子（変化への親和性、緊張感の存在、安定的な市場シェア）は統計的に有意とはならなかった。</p> <p>結果的には的確なポジショニング（外的環境要因）が、ニッチ企業の持続的な成長に大きな影響を与えていることが判明したが、迅速に試行的な実践（内的経営要因）を行い、新たな市場の開拓を漸進的に行うことで変化に対応することの重要性も示された。つまり外的環境要因と内的経営要因を成長のための両輪としてバランスを保ちながら追求し、持続的な成長の実現を長期的に志向していくことが、成功の可能性を高めていくものと考えられる。このような結果はニッチ企業に限らず、他の日本企業が持続的な成長を実現するためにも、参考になる一つの方策であると考えられる。</p>					